



自立して社会に貢献できる生徒の育成

南中だより



福山市立駅家南中学校

2026年(令和8年)

7月9日(木) NO.5

「チャレンジ・ウィークふくやま」で職場体験学習を行いました！



6月30日(火)～7月2日(木)の3日間、2年生が「チャレンジ・ウィークふくやま」として職場体験学習を行いました。

お忙しい中、生徒の受け入れを快く引き受けてくださり、心より感謝申し上げます。今年度も大きな事故もなく無事に学習を終えることができました。今回の職場体験学習を通して、生徒たちは学校では学ぶことのできない、実際の社会での学びを経験し、それぞれに多くの気づきや学びを得ることができました。

今回は、生徒の「感じたこと」「学んだこと」のレポートと「自分にとって『はたらく』とは何か」を紹介します。

- ◎ 動物園で働くことで、来園してくださった方の笑顔を見ることができたり、自分の担当の動物と仲良くなれたり、動物の見分けがついて顔や名前を覚えることも仕事のやりがいなんだなあと感じました。
- ◎ 保育園の仕事でうれしかったことは、こどもたちから話しかけたり遊んだりするとすぐに笑顔になってくれることです。自分も自然と笑顔になって頑張ろうっていう元気が出ました。苦労したことは、同時に話しかけられたり引っ張り合いになったりで大変でした。しかも、ずっと立ちっぱなしなので職場の人はすごいなと感じました。
- ◎ デイサービスでは、おばあちゃんやおじいちゃんとたくさんコミュニケーションとれたり、オセロをしたり、とても楽しいうれしかった。レクレーションやご飯や飲み物をもっていったとき「ありがとう」と言われたときやりがいを感じた。
- ◎ ファッションセンターは普段は、家族と一緒に買い物する場所ですが、働く側になって、お店の裏側では、たくさんの工夫や努力があることを知りました。ハンガー掛けもただかけるだけでなく、タグや向きをそろえた素早く出せる工夫がありました。三日目のレジではお客様に「ありがとう」と笑顔で言われてうれしかったです。
- ◎ 自分たちが当たり前のように食べている『コッペパン』がどのように作られるのか、実際に体験したり、見たりすることができうれしかった。今までの自分は周りをあまり見られなくて何をすればいいのかわからないことが多かったけど、今回の職場体験を通して積極的に動き「視野を広くしていかなければ」と思った。
- ◎ お好み焼きを自分で作って食べて本当においしかったです。また、接客マナーについての大切さも教えていただきました。お客さんがお店に入ってまする感じることは「あいさつ」だそうです。笑顔であいさつすることがそのお店の印象を左右し、「また行って食べたい」と思ってもらえるようにしなければならないということです。

自分にとって「はたらく」とは・・・

- ◎ 大変な仕事の中でも自分なりのやりがいや楽しみなどを探ること。
- ◎ 大変な仕事でも、その先にあるお客様の笑顔や喜びのために行動したりすること。
- ◎ いろいろな人と支え合ったり、関わったりして乗り越えること。
- ◎ 「はたらく」とは、その人の努力そのもので、まったく誰にもできないこと。
- ◎ 見えないところでも準備や努力を重ねること。
- ◎ お金を稼ぐだけでなく、自分のやりがいを見つけたり、生きる上でいろいろなことを経験したりしていくこと。

ホロコースト記念館へ行ってきました！

3年生は、6月24日（水）ホロコースト記念館に行ってきました。御幸町にあるホロコースト記念館は、戦後50年の節目に当たる1995年6月、日本で最初の教育センターとして開設され、2007年10月にはスペースを拡張した新館が建てられました。2年生の時の道徳で『杉原千畝』さん、3年生の社会では第二次世界大戦の内容とともに、ホロコーストについて学習しており、今回はその学びをさらに深めるために訪問しました。

生徒の感想から

今日は、ホロコースト記念館で平和に対する意識を改めてきました。オットーさん（アンネフランクの父）の言葉から、「平和をただ待つのではなく、自分が、自分たちが平和のために何かをする人にならなければならない。」と気づきました。じゃあ、僕に何ができるのか、その答えは「話すこと」です。日本人と話すのさえ難しいのに、世界平和に向けて他の人と話をするとなると、それなりの勇気と技術が必要です。だけど、勇気を出して自分と異なる立場の人と話、お互いの良さ本質に気づくことが平和への第1歩です。きっと、SNSや画面に向き合っただけで、人間と向き合うことを忘れ始めているこの社会を変えるために、一人一人の意識が大切です。僕は、このことを忘れずに社会の役に立ちたいです。

新刊入荷しました！

学校図書館の一角に「校長先生おすすめの本です」コーナーが開設しました。これらの本は、国語教科書の筆者等に関連するものばかりです。書店に行って自分で本を選ぶのもいいですが、時には、誰かに推薦された本を手にとってみるのも面白いものです。もしかすると、自分にとって大切な一冊との出会いがあるかもしれません。

《 コーナーにある本の紹介 》

- ◎ 「アフリカ少年が日本で育った結果」 星野ルネ 著

読むだけで元気が出る！「日本人らしさってなんだっけ？」と家族みんなで楽しめるコミックエッセイ！

- ◎ 「種をまく人」 ポール・フライシュマン 著 片岡しのぶ訳
人種や年齢が異なる13人の視点を通して、貧困街のごみ溜めが共用の菜園へと生まれ変わっていく軌跡を描いた感動作です。

- ◎ 「おとなになるのび太たちへ」 藤子・F・不二雄 著
各界で活躍する10人が「人生を変えた『ドラえもん』の1話」を選び、夢の叶え方をつづった書籍です。

- ◎ 「つれてこられたただけなのに」 小宮輝之監修

人間の都合で連れてこられた外来生物が「わるもの」扱いされる悲しみと、命のつながりについて描いています。

- ◎ 不安な時代に踏み出すために「だったらこうしてみたら？」 植松努 著

北海道の町工場から宇宙開発に挑戦し、「下町ロケット」のモデルにもなった植松努さん。人生の壁にぶつかったとき、未来に不安を感じた時・・・あきらめるのではなく、「だったらこうしてみたら？」と視点を変えるだけで、目の前の景色が変わります。

